

ミッション

- ✓ 私たちは、「いかなる患者でも受け入れることを持つこと」こそ、相澤病院救命救急センターの譲らない原点と考えます。
- ✓ 私たちは、開院以来受け継いできた矜持である「病気で困ったとき、いつでも診てくれる」ERとしての機能と、「重症患者を救う」救命救急センターとしての機能とが一体となった相澤病院独特の救急医療システムをさらに強化・発展させます。
- ✓ 私たちは、他の医療機関との役割分担を明確にし、相互に補完・連携を推進しながら、地域全体にて医療を完結するいわばネットワーク型の広域型医療を目指します。

ビジョン

医療人としての自律

「病気で困ったとき、いつでも診てくれる」このフレーズは地域の人々が、切に望むことです。これは、「患者さんを助けたい」という病院スタッフの優しさと情熱によって支えられます。これは、医療人としての自律に他なりません。患者さんが「来てよかった」と思っただき、いつでも頼れる場所をめざすことが、地域から求められる信頼へと繋がる一歩と考えます。

チーム医療の強化

患者さんが抱えている問題は、単に病気を治すことだけではありません。治療後に今までどおり暮らせるのかといった社会での生活の課題を解決することが、極めて重要となっています。これには、多職種からなる“チーム”での対応が必然的に必要と思われます。患者・家族を中心に添えたチーム医療を充実させ、「治す医療、癒す医療、支える医療」を目指します。

地域の人々が望む「頼れる」ER 機能と「最後の砦」の救命救急センター機能をさらに強化発展します。

地域の救急医療の「ハブとしての機能」を強化・発展することです。そのためには、地域の医療機関との双方向性の連携をさらに推進することが極めて重要となります。互いに医療機関の機能を考え、それに応じて、自ずと役割が明確となり、相互に補完できる連携を目指します。これは、地域全体にて完結するネットワーク型の広域型救急医療へと繋がります。救急患者連携搬送といった施策もその役割を担う一つかと思います。さらに今後の救命救急センターの役割の一つに連携した病院の機能を向上するアドバイスをしていくことも大切です。中核病院として得られた知見を移譲していくことです。それには連携病院のことをよく知ることが大切となってきます。これは延長線上に災害時の対応とも連動してきます。地域の救急医療の要としての救命救急センターには、地域の先導として自覚し、これを目指す必要があり、大変重要な役割であると思います。